

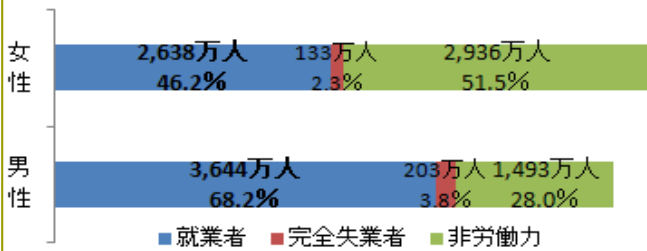
2009年版働く女性の実情—景気後退の影響は？（厚生労働省調査）

●女性の10人中5人が労働力

2009年の女性の労働力人口は前年より9万人増加し2,771万人になり、非労働力人口は6万人減少し2,936万人となりました。

15歳以上の女性の労働力率は48.5%、学生や専業主婦などの非労働力人口は51.5%を占めます。女性の10人中5人弱が、何らかの仕事を持って働いているということになりますが、男性の労働力率72%と比べるとかなり低い状況です。

労働力人口と労働力率男女比較

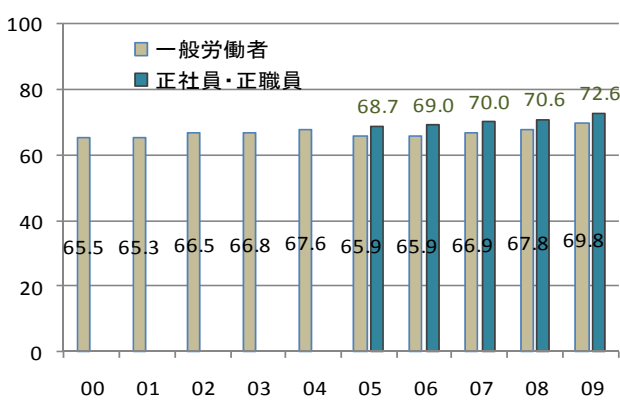


●男女の賃金格差は縮まる傾向？

2009年の女性一般労働者の所定内給与は4年連続増加し228,000円、逆に男性は4年連続で減少し326,800円でした。

男女間の賃金格差は、男性100に対し女性69.8、正社員に限れば72.6です。徐々に縮まる傾向にはあるようですが、その差はまだ大きいです。

男性を100とした場合の女性の賃金



●医療福祉分野で女性が増加

「建設業」、「製造業」の雇用者は男女とも減少しており、特に2009年に入ってから減少幅が大きくなっています。

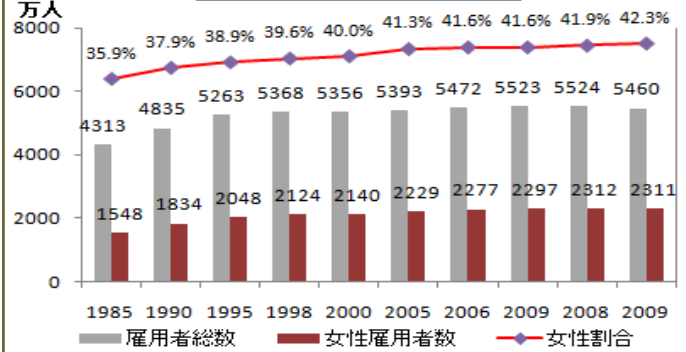
「医療、福祉」では男女とも増加傾向にあります。2009年7-9月には男性9万人、女性31万人増と女性の増加が目立ちます。



●女性雇用者数は7年ぶりに減少

2009年の雇用者総数は5,460万人と前年より64万人も減少し、女性の雇用者数は2,311万人で2003年から7年ぶりに減少となりました。ただし、雇用者総数に占める女性の割合は42.3%と、過去最高となっています。

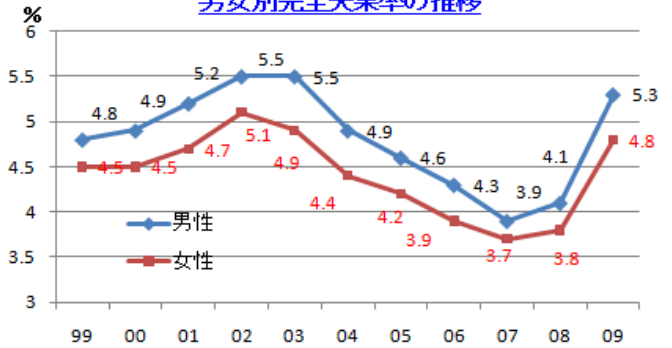
雇用者数と女性割合の推移



●求職中女性が増加傾向に

2009年の完全失業者数は男性203万人（前年比27.7%増）、女性133万人（前年比25.5%増）といずれも増加し、失業率も急激にアップしました。

男女別完全失業率の推移



女性失業者の内訳は、非自発的離職（会社都合等）44万人、自発的離職（自己都合）46万人、その他（新たに仕事を探し始めた者等）36万人など。景気後退の影響から新たに仕事を探す女性が増加傾向にあるようです。

一方男性は、会社都合101万人が圧倒的に多く、自己都合57万人が続いています。

2009年 求職理由別完全失業者数 (単位:万人)

